

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 連携：熊本市教育委員会
員会等	事業名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 Kumamoto Education Week ①「あの子をわかる、育ちに向き合う」～子ども支援について語り合う～ ②「これからの学校を『対話』する」のその後～学校現場での実践に向けて～ ③学び続ける教師を追う～知の深化が学校・子どもをアップデートする～
コラボ研修プログラム	研修等名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 Kumamoto Education Week ①「あの子をわかる、育ちに向き合う」～子ども支援について語り合う～ ②「これからの学校を『対話』する」のその後～学校現場での実践に向けて～ ③学び続ける教師を追う～知の深化が学校・子どもをアップデートする～
支援事業報告書	開催日時：①令和7年1月31日 18時30分～20時 開催場所：未来会議室下通店（熊本市中央区下通 1-12-27CORE21） 参加人数（総数）と参加者の属性：参加者 50 人＜学校関係者 25 人（50%）、大学生・大学院生 10 人（20%）、保護者 6 人（12%）、スタッフ 9 人（18%） ②③令和7年1月 KumamotoEduActionWeek にあわせ YouTube 配信

目的：

KumamotoEduActionWeek は、熊本市の教育理念「豊かな人生とよりよい社会を創造するために自ら考え主体的に行動できる人を育む」の実現に向けて、熊本大学教職大学院もその一翼を担い、連携を図りながら取組を進めている。今年度は以下の取組を行い、ウェルビーイングの実現とエージェンシーの育成を目指した。

- ①澤栄美氏は、新著『あの子をわかる、育ちに向き合う』で、養護教諭としての豊富な経験にもとづき、様々な子どもたちにどのように対応するのが紹介している。澤氏とともに、「子どもを理解するとはどういうことか」を具体的に考え、自身の子ども観や教育観の問い直しを行っていく。
- ②苫野一徳氏は、学校に対話の文化を醸成し教育の本質についていく必要性を提案する。それを受けて取り組まれた学校現場での具体的な学校運営、校内研修、授業づくり等の実践を共有し、その効果や課題を明らかにする動画を制作する。「対話」をすることの意味を今一度問い直す。
- ③熊本大学教職大学院修了生が、大学院での学びを学校経営やクラス経営にどのように生かしているのか、現役大学院生が取材を行い動画を制作する。取材から見えてくる、教師が学ぶことの意味や、学び続けることの大切を発信する。

内容：

- ①趣旨説明・流れの確認 講演「澤先生が本に込めた思い」対談「子どもたちの向き合い方」澤栄美氏×水野直樹氏「著者の澤先生の本に込めた思いや事例から、自身の子どもの向き合い方を振り返り、これからの向き合い方のヒントをつかむ」ことをセミナーの趣旨とする。澤氏からは、これまでの経験から得た知見をもとに、どのように子どもたちと向き合っていくことが大切なのかが話される。対談では、本の事例を挙げながら、どのような対応が適切であり、気をつけるべき点は何なのかを話し合った。途中で、グループ協議も入れ、澤氏の話を受けてそれぞれの思いを語り、全体で共有した。
- ②1部「研修の紹介」2部「研修のその後1」2部「研修のその後2」2部「研修のその後3」3部「未来へ」2年生が企画運営した研修会に込めた思い、内容や事後アンケートを紹介。研修会に参加された方が、学校現場でどのように実践されたのか、学校現場での具体的に実践に基づき、「本質を対話する子供の姿」「本質を対話する教師の姿」「働き方に繋がる対話」について語っていただいた。研修会の登壇者である苫野一徳氏（熊本大学准教授）に総括をしていただいた。「学び続けること」「協働すること」など今後の学校の在り方について語っていただいた。
- ③0部「本プロジェクトの概要の紹介」1部「行動的な塘居先生にインタビュー」2部「躍動的な余宮校長先生に密着」3部「やっぱり先生ってすごい 大学院生がつかんだこと」4部「AI時代の教師ビジョン・・・未来へ」「令和5年に修了し、熊本市の公立小で教員2年目を迎える、スポーツ万能の塘居先生」「平成23年に修了し、教頭を経て、熊本市の公立小で校長2年目を迎える、授業力ピカイチの余宮忠義先生」の学校現場での活躍の様子を動画にまとめる。取材をした大学院生と未来教育デザイナーの鈴木敏恵先生が本プロジェクトを通して感じたことを共有した。最後に鈴木敏恵先生が、本プロジェクトについて総括し、「教師が学び続けること」について語っていただいた。

成果：

- ① セミナー後のアンケート（41 人回答） とても役に立った（39 人・95%） 役に立った（2 人・5%）
あまり役に立たなかった（0 人・0%） 役に立たなかった（0 人・0%）
- ・澤先生のこれまでの経験を踏まえた思い、本に込められた思いに触れることができ、これからは教員として頑張っていこうという気持ちが高まった。もう一度、本を読み直したいと思います。（学校関係者）
 - ・担任として自分のクラスの児童の問題の解決のために参加しました。どう対応すればよいか、その答えを教えてもらおうと思ってきたのですが、児童の背景をつかみ、児童の思いに寄り添い、どのように関わっていけばいいのか、問題との向き合い方を知ることができました。答えは自分で見つけるものだと思います。（学校関係者）
 - ・教員として、これまでの経験をもとに児童の課題に対応してきました。経験に頼るあまり、目の前の子ども、そして課題に向き合うことができなくなっていたかもしれません。リセットする大切さを感じました。（養護教諭）
 - ・保護者として、学校には感謝とともに、失望もありました。じっくり話を聞き、自分自身も自分の気持ちを語ったことで、先生たちの思いを深く感じる事ができたように思います。対話する大切さを感じました。（保護者）
 - ・自分だけで解決しようとしなくていいこと、周りのいろいろな人の力を借り、子どもたちの思いにまっすぐ向き合うことの大切さを感じました。やっぱりチームで連携することが大切です（学校関係者）
 - ・養護教諭を目指す学生です。保護者対応はとても不安です。多くの人と話し、みんなでかかわる大切さとともに、たくさんの力を借りていくとよいと感じ、ちょっと安心しました。いっぱい話ができよかったです。（大学生）

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

今回のセミナー、動画制作にかかわっていただいた澤栄美氏、苫野一徳氏、鈴木敏恵氏はたいへん著名であり、多くの人から共感を得ている。一方的な発信に終わらず、参加者の意見や質問に対して双方向的な対応を行った。このようにして、より深い理解を促し、自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ね、価値観を問い直し、具体的な実践を促すことを目指した。このことは、NITS からの提案（第一次）と重なる。わかりやすさ、取り組みやすさを重視し、今後の具体的実践につながるセミナーの効果は、とても大きいと考える。「研修を通じて、参加者にどのような気付きや変化があるか」という参加者の具体的な学びの姿を大切にされた講師により、本セミナーが参加者のニーズに応え、セミナー後の具体的な行動を促すことにつながったと考える。

アイデアや工夫したこと：



- ・澤氏の講演、そして澤氏と大学院生のディスカッションを通して、子ども、教師、保護者の悩みを軽減し、多くの人の喜びや充実感を増やすことを目指した。
- ・児童生徒と保護者にとって身近な「子どもたちとのかかわり方」をテーマにした。より自分事として捉えられることにより、「新しい関係づくり」や「新しい連携のあり方」について考え、子供たちの成長に寄与することをねらった。
- ・今回のセミナーは、保護者と教職員の連携を目指した。保護者にとっても分かりやすく、受け入れやすい内容になるように事

前に講師と打ち合わせを行った。前半の講話のあと、講話の内容がより深く理解できるように対談形式とした。

さらに、3 人グループでじっくり話し合い、全体で共有を行った。それに対して澤氏、水野氏のコメントをいただき、みんなで十区あり話し合い、満足度を高めることができた。親しみやすい話し方、分かりやすいシートや具体的な例、丁寧に質問に応えることにより、アンケートの結果もとてもよいものであった。

- ・②③の動画については、それぞれのパートを 10 分以内にまとめ、多くの人に気軽に視聴いただき、実践につながる内容を目指した。YouTube

配信ということで、いつでも何度でも見る事ができる、さらに全国から多くの視聴を可能とした。2 年間の配信を予定しており、今後もさらなる視聴を期待する。

- ・講師の選定において、最新の情報を提供するとともに、分かりやすい話題提供ができる方に依頼した。たいへん好評であった。
- ・広報については、参加を促す興味を高めるチラシ作成を心掛けた。熊本県内の小中学校及び、PTA に配布した。さらに、フェイスブックやメール、地元新聞等でお知らせした。SNS を活用したことにより、県外からの参加も多かった。

**学び続ける
教師を追う**
知の深化が
学校・子どもを
アップデートする

教職大学院生が
学校現場で活躍する先輩を取材！
「学び続ける大切さ」をつかみました



鈴木 敏恵氏
熊本教育デザイナー



熊本大学教職大学院生
熊本大学教職大学院修了生

熊本大学
Kumamoto University

EduAction Kumamoto Education Week 2024-25

皆さんの夢が未来を創る

Kumamoto Education Week 関連企画
NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修

『あの子をわかる、育ちに向き合う』 ～子ども支援について語り合う～

「あの子をわかる、育ちに向き合う（くら社）」が発売されました！
子どもたちが抱える困り感にどう向き合い、どう変えるのか、子どもを
深く理解し支えるための具体的なヒントが満載の本です。

著者であり、熊本市教育委員・スクールカウンセラーの澤栄美氏をお招きし、参加者全員で教育現場の課題や子どもへの向き合い方について語り合います。心が通い合う学びと対話の時間をぜひ一緒に！**対面開催**

2025年1月31日(金)18時30分～20時

場所：未来会議室下通店（熊本市中央区下通 1-12-27CORE21 下通ビル 5F）

主催：熊本大学教職大学院

後援：熊本県教育委員会

熊本県教育委員会

熊本県 PTA 協議会

対象：保護者・教職員等

教育に関心がある方

参加費：無料 定員：50 人



水野樹氏をコーディネーター
に迎え、著者の澤栄美氏と、
参加者全員で語り合います。
右の QR コードを読み込み
申し込んでください



<https://v.gd/UM6fo>